令和５年度文部科学省ユネスコ活動費補助金 ／ SDGs達成の担い手育成（ESD）推進事業

社会教育・学校教育融合型のESDを主眼としたカリキュラムパッケージの開発

事業報告と外部評価委員による事業評価

2024年1月20日(土)　タカミヤ環境ミュージアム

事業概要

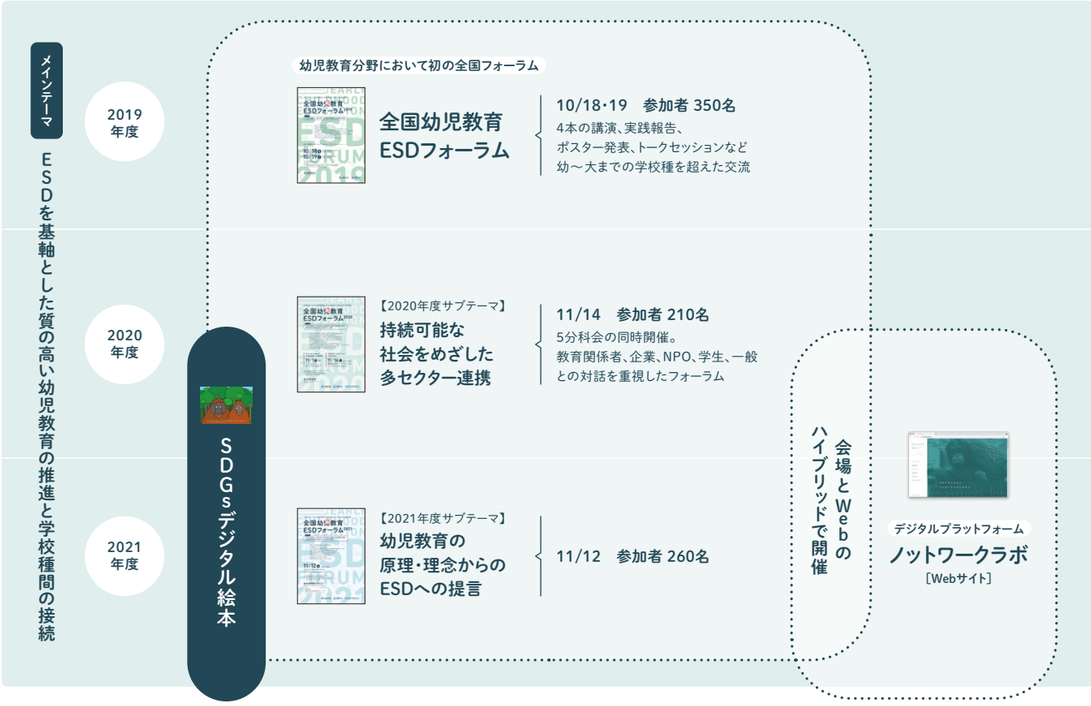
ESD・国際化ふじのくにコンソーシアムを母体に、社会教育（タカミヤ環境ミュージアム）と学校教育融合型のESDを主眼としたカリキュラムパッケージを開発し、その成果を全国に発信する。また、環境系の行政、団体、企業等、新たなネットワークの構築を図りESDの更なる普及啓発を行う。
令和5年度は、NPO法人里山を考える会が考案、明治学園小学校とともに実践している「ミュージアムジャック」のカリキュラムパッケージの開発と発信を行なった。

2024年1月20日(土)	ミュージアムジャック 来場者：107名程度	ESDフォーラム ミュージアムジャック 参加者：対面32名、オンライン256名

子どもにかかわるすべてのおとなが機関の垣根を越えて考えるためのカリキュラムパッケージ
ミュージアムジャック2023

ミュージアムジャックに至るまでの経緯

令和元年度～3年度文部科学省ユネスコ活動費補助金により、「ESDを基軸とした質の高い幼児教育の推進と学校種間の接続」をメインテーマに、全国幼児教育ESDフォーラムとSDGsデジタル絵本プロジェクトを行い、ネットワークを構築した。そのネットワークを基盤にミュージアムジャックが実現した。



「ESDを基軸とした質の高い幼児教育の推進と学校種間の接続」からの継続事業

全国幼児教育ESDフォーラム

ユネスコスクール支援「ユネスコスクールの遊びと生活展」(主催：静岡市こども園課主催)
https://knotworklab.com/activity/2023/2000/ >>>

静岡県教育委員会幼児教育推進室×静岡大学教育学部
「保育プロセスの質リフレクションシート」活用研修事業　第3版刊行
https://knotworklab.com/data/2033/ >>>

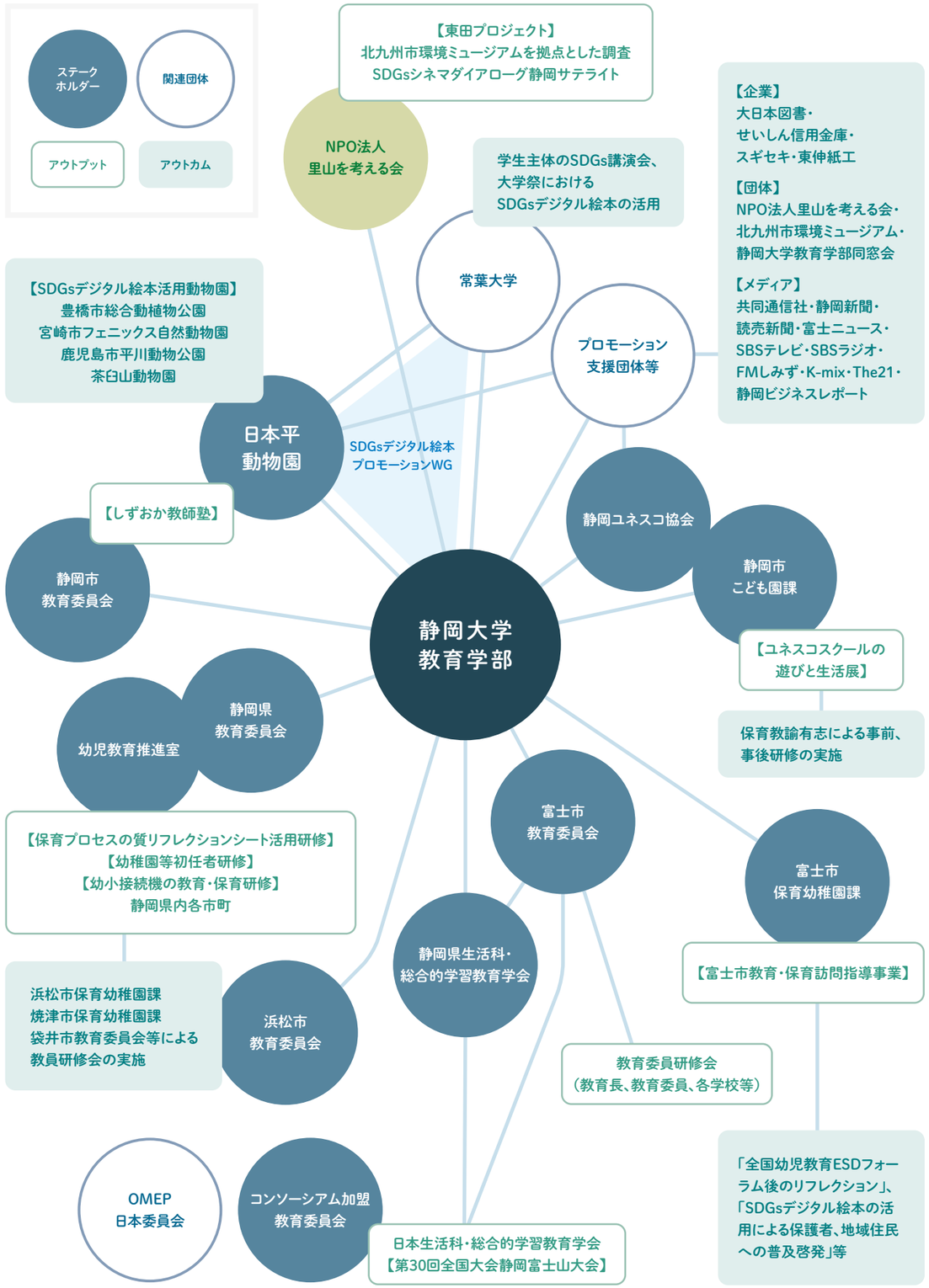
静岡大学委託事業　富士市教育・保育施設訪問指導事業
https://knotworklab.com/activity/2023/1921/ >>>

SDGsデジタル絵本プロジェクト

受託研究　令和5年度南アルプスユネスコエコパーク環境教育・普及啓発に関する調査・検討(研究担当者 田宮 縁)
No one will be left behind Vol.3 作成
https://knotworklab.com/data/2071/ >>>

令和5年度　しずおか中部連携中枢都市圏地域課題解決事業助成金
静岡市立日本平動物園ティーチャーズガイド New Edition 作成
https://knotworklab.com/data/2063/ >>>

コンソーシアム事業(令和元年度～4年度)の主なアウトプットとアウトカム



外部評価委員による事業評価［敬称略］

宮川 秀俊　愛知教育大学名誉教授

これまでの10年にわたるESD・SDGs活動の経験と実績を基に、今回の明治学園小学校4年生によるミュージアムジャックの試みに対し、その果敢な取り組みに敬意を表します。当日のESDフォーラム全体について、私自身の気づきを述べさせていただきます。

まず、児童のみなさんの動きは、各々の役割を理解して積極的に遂行し、その結果各自の動きが円滑であったように思いました。そこでは多少の戸惑いや唐突な事象への対応に出くわしながらも、自分であるいは仲間と共に解決していく姿が見られました。このような中で、児童にはプレゼンテーション能力の育成、仲間や見学者とのコミュニケーション能力の醸成、科学・技術に係わる基礎知識の獲得ができたと考えています。このことは、SDGs4に即応するものと思われ、一方先生には普段の画一的な授業や学校生活の中から、多様な能力や資質を有する児童の個別化・個性化教育への対応ができたものと推察します。このような観点からは、今回の取り組みを一般化するために、児童の具体的な変容を把握することが大事だと思いました。

次に、ESDフォーラム実践の場となった環境ミュージアムは、展示内容で過去の公害の事実を確認し、そしてそれを土台にして、現代的環境課題ならびにESD・SDGsに結びつけていく形式でした。種々の情報は整然として提示されており、また見ること、聞くこと、触ることによる感覚に訴える手法で、来館者にとって大変効果的であるように感じました。これらのことにより、ミュージアムジャックでめざす児童のあるべき姿のために、活動場所として生かすことや支援する条件を満たしていると思われます。

今回のミュージアムジャックの取り組みは、活動者（児童）、提供者（市・組織等）、企画者（田宮研究室）の三位一体として相乗効果を発揮し、成功のうちに終わったと言えるでしょう。

これからもチャレンジされることを期待しています。

永田 忠道　広島大学准教授

国立大学法人静岡大学を中軸とするESD・国際化ふじのくにコンソーシアムを母体にした社会教育と学校教育融合型のESDを主眼としたカリキュラムパッケージの開発と実践の成果について、まず固定化したマニュアルのようなものではなく、あえて大枠のフレームを提案された点を評価する。SDGs実現にむけた教育現場での中核となるESDの視点を組み込んだカリキュラムや教材、プロジェクト等はそれ自体が自己完結してしまう可能性が高いものが多くなりがちであるが、本事業で進められたフレームワーク的なカリキュラムパッケージの開発と実践は、今後に他者による展開・発展の余白を意図的に残すとともに、このフレームがSDGs達成の担い手育成をねらうESDの新たな取り組みへのチェックシートにもなりうるものとなっている。

また、本事業では静岡と福岡の二つの拠点性のもとでだからこそ、タカミヤ環境ミュージアム（北九州市）での小学生によるミュージアムジャックという新たなカリキュラムパッケージのフレームを導き出している。この点については、学校教育と社会教育、そして環境系の行政・団体・企業等の新たなネットワークの構築の実行可能性を見せてくれており、ESDの更なる普及啓発とその成果の全国的な発信の観点としても本事業として相応しい一つの到達点に至っている。

以上のような本事業の成果は、静岡大学やESD・国際化ふじのくにコンソーシアムだけにとどまらず、全国的な普及・発信とそのネットワーク化にむけて、また本年度だけでなく、本格的には2016年度以降の8カ年の取り組みの蓄積の上に構築されてきた点も高く評価できる。今後は、本年度までの事業で構築されてきた組織やネットワークとともに、ここまでの成果やこの度に開発と実践を進めた社会教育と学校教育融合型のESDを主眼としたカリキュラムパッケージなどを、多様な他者が継続的に活用・進展させられるような持続可能性への展開も期待できる。

進藤 由美　ユネスコ・アジア文化センター 顧問

※オブザーバーとして事業評価をご依頼

ESD・国際化ふじのくにコンソーシアム事業の軌跡

SDGs達成の担い手育成ESD推進事業の一環として始まった「ESD・国際化ふじのくにコンソーシアム」は、静岡大学教育学部が主軸となり構築してきた。同大学では2016年からの3年間を第一期として捉えているが、実際にはそれ以前からESDコンソーシアムの構想を検討していた。設立当初から学校種を越えた学びや地域の資源（例：日本平動物園など）、多様なステークホルダーが参画し、実践活動や取組、課題を共有できるプラットフォームづくりに力を注いでいる。その後、同コンソーシアムは、様々な活動を継続しながら研修会や研究会といった実践の共有だけでなく、教材づくりをはじめ、学校種や地域を越えた深い学びへと繋がってきている。この度、本年度事業の事業報告を受け、その発展と継続性、ユニークな取組と他の地域にも展開できる柔軟なカリキュラム作りが評価のポイントと認識している。

ESDフォーラム：ミュージアムジャック

コンソーシアムの設立から10年以上が経った今を第3期とすると、学びの質は変わってきた。児童・生徒が学校のナカとソトの垣根があいまいになってきており、学校教育と社会教育の融合は既に始まってきている。今年度実施されたESDフォーラム「ミュージアムジャック」は、北九州市の明治学園小学校の子どもたちが学校のナカ（すなわち、コンフォートゾーン）から飛び出し、地域の資源の一つであるタカミヤ環境ミュージアムとつながり、年度を通して学びを深めていった。SDGs達成へ向けての担い手育成をまさに具現化したものと言える。こうした学びを遠く離れたESD・国際化ふじのくにコンソーシアムが手掛けていることにユニークさとヒントを提供してくれた。

今後の期待

社会教育と学校教育を融合させたESDカリキュラム作りにおいて、どこの地域においても展開可能な「余白」のある内容となることが望まれる。正解のない、既定路線のない未来を生き抜いていく力を育てていくためには、問いを持ち続けるといった学び合いから新たな価値が生まれてくる。そう言った意味で、本年度の成果を「ESD・国際化ふじのくにコンソーシアム」のあるローカルのプラットフォームに今一度繋げ、互いの地域の学び合いへと発展していくことを期待したい。

社会教育・学校教育融合型のESDを主眼としたカリキュラムパッケージの開発
事業報告と外部評価委員による事業評価

ESD・国際化ふじのくにコンソーシアム事務局　静岡県静岡市大谷836 静岡大学教育学部
プロジェクトリーダー　田宮 縁　tamiya.yukari@shizuoka.ac.jp